



中央小学校だより NO. 15
「心やさしく たくましく」

〈ホームページ〉

<http://chuo3131.ec-net.jp/>

令和元年7月16日
波佐見町立中央小学校
TEL 0956-85-3131
(文責 校長 原 源吾)

「有意義」な夏休みにするために

子どもたちにとって、ドキドキわくわくの夏休みがもうすぐやってきます。しかし、保護者の皆さんにとっては必ずしもそうではないですね。「1日中家におるけんですね〜。」「三度三度のご飯の用意が…。」という声を耳にします。私には3人の息子がいますが、彼らが小学生の頃は、ご多分にもれず宿題や自由研究に追われることが多くて、正直「有意義」な夏休みになったかどうかと問われたら、あまり自信がありません。自分の反省をもとに、『有意義』な夏休みにするために』のポイントを考えてみました。



1. やりとげたい目標を、休み前に具体的に決めておく。

「今年の工作は〇〇の材料を使って□□を作る。」「自由研究のテーマは△△にする」「毎日、絵日記を書く」や「毎日アラームをかけて自分で起きる」等、学習・生活両面において、具体的なめあてを早めに（できれば休みに入る前までに）決めておくといいです。そうすれば、いつから、どのように始めればよいか、見通しがつきやすし余裕が出ます。

2. 毎日、家の手伝いをする。

風呂洗いや靴並べ、洗濯物の取り込み・たたむ、部屋の掃除等、子どもができることはたくさんあります。夏休みは、時間がたっぷりあるので、ふだんの手伝いに新しく仕事を加えてみてはどうでしょうか。家族の一員として40日間思い切って任せ、続けて頑張らせることで、できることが増え自信になると思います。



3. 自分のことは自分でできる習慣をつける。

手伝いと重なる面がありますが、食後に食器を下げる、洗濯物をたたみ、自分の服をきちんとしまし、使ったおもちゃはすぐに片付ける等、夏休みは、自分ができることは自分でやる習慣をつける、自分でできることを増やすチャンスではないでしょうか。

4. ふだんはできない体験をする。

家族旅行をすぐに思い浮かべますが、親子で昆虫採集や草花観察をする、波佐見町の史跡・遺跡めぐりをする、ボランティア活動に参加する、親の仕事場を見せる（仕事を体験する）等、工夫すれば手軽にできるものがあると思います。いろいろな体験が子どもの視野を広げますし、親子のふれあいも深まるのではないかと思います。



成長期の子どもたちには、夏休み中に身長が1～2cm伸びることがあるぐらい成長を感じる時期です。体の成長と同じように、子どもたちがいろいろなことに挑戦し、できることを増やす、自信をつけて2学期を迎えることができるよう、ご家庭での励まし、サポートをお願いします。

※裏面はありません。